



鉄鋼・建設資材で未来を創造する

初穂商事株式会社



FAX: 052-222-1065

mail: kaihatsu@hatsuho.co.jp

https://www.hatsuho.co.jp/

発行部数: 1,200部 / 年3回発行(4.8.1月)



初穂商事HP

脱炭素社会に向けて 電炉の建設

日本国内で排出される二酸化炭素(CO2)のうち、産業部門の4割近くを占めているのが「鉄鋼業」です。

スウェーデンやドイツなどの欧州では、製品の環境負荷を明示する動きが加速しており、地球温暖化対策が脱・鋼材の引き金になることを強く警戒しています。

そして、日本においてもLGSの材料となるコイルを生産している高炉メーカーが、CO2削減の為電炉の建設を計画する動きがあることをご存知でしょうか？



電気炉製鋼の利点は、主原料が鉄スクラップのため資源を有効化できる点、比較的小ロット多品種の生産に適している点、そして高炉に比べ、設備費、消費エネルギーが少ない点です。

鉄鉱石と石炭から作るコークスを炉に入れ、高温の熱風を送り製鉄する「高炉」に比べ、「電炉」であれば同じ量の鋼材を生産する際に出る二酸化炭素の量を約4分の1に抑えることができます。

一方で鉄スクラップには様々な不純物が含まれているので成分調整が難しく、「電炉」を用いた製鋼方法で造られた鉄鋼製品の加工性は、高炉を用いた製鋼方法の鉄鋼に及ばないとの見方もありますが、近年では技術改良が進み、

その不純物を有効に活用する技術も生まれています。

また、使用するエネルギーが電気のため、電気料金値上げなど外的要因でコストが左右されやすい点です。またスクラップに含まれる不純物が原因で電気炉製の鋼鉄は加工性に劣るといわれることもあります。

しかし、高炉メーカーを中心に発展してきた結果として、日本では、欧米と比較して電炉による生産比率が低い水準にとどまり、国内で使い切れない鉄スクラップが輸出に回っているのが現状です。

2020年の国内の鉄スクラップ発生量は約3,000万トンで、主に電炉メーカーが原料として使用しています。

ただし、国内の粗鋼生産量に占める電炉生産比率は30%程度にとどまっています。

これに対して海外に目を向けると、米国の電炉生産比率は実に70%に達しており、EUでも42%にものぼります。つまり、欧米の先進諸国と比較して、日本では、鉄のリサイクル利用が遅れています。

脱炭素の流れが加速していく中で、他の先進国と歩みを揃えることは、とても重要になります。



【NHK/エコな製鉄 “電炉” が熱い！】

情報広場 ～自社をPRしてみませんか？～

双方向の情報発信ができるツールの1つとして、また自社製品をPRする機会がないとお悩みのお客さまも、是非情報広場をご活用ください。当紙面にてご紹介させていただきます！（無料）
☆掲載申し込み、お問い合わせは弊社営業または右記QRコードよりお願いします。



【情報広場問合せ先】

ヨドコウ × BEAMS コラボ物置

ヨド物置からBEAMSプロデュースの商品が発表されました。

〈こだわりポイント〉

物置＝庭に置かれるアイテム。

今までは物置にファッション性は求められてなかったかもしれませんが、

コロナやアウトドアブームで自宅での幸福度を求める流れが急速に広がっているのでは？と考えました。

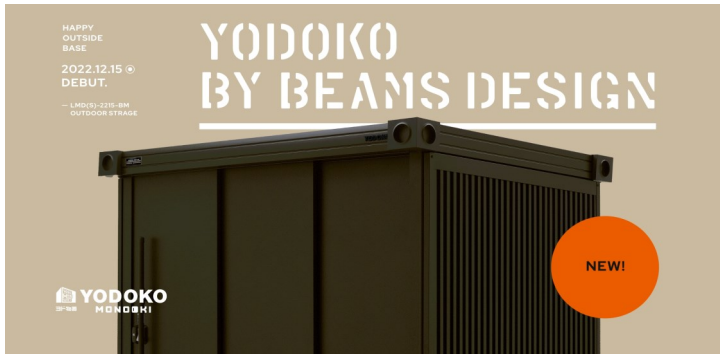
よって今まではインテリアをこだわる傾向から、エクステリアまで広く深く表現する人が増えていくはず。であれば、今外遊びをカッコよく作り込むならミリタリーデザインなのでは？

という着想でこちらのコンセプトを考えました。

発売から約5か月で販売実績は1,000台程度。設置予定場所の写真を頂くことで概算見積り可能です。材工でも対応しているので、お気軽にお問い合わせください。



[YODOKO BY BEAMS DESIGN]



営業所紹介 ～熱田営業所～

初めまして！！熱田営業所エクステリア課の石川です。

今回は、私が熱田営業所の紹介をさせていただきます。

当営業所には、エクステリア課と金物課を合わせた22名に、北倉庫の2名を加えた計24名が在籍しており、共に日々職務に励んでいます。

金物課では金物屋さんを中心としたお客様への商品の販売をしております、エクステリア課はエクステリア商品の販売に加えて外構工事なども行っています。

そんな熱田営業所ですが草薙剣が祀られていることで有名な熱田神宮が近くにあるため、年始には希望者のみ普段より早く出社してみんな初詣へ行ったりもします。

4月からはなんと南区大江に新倉庫がオープンするというので、気持ち新たに頑張ります！



みんなの防災 ～断水対策～

ライフラインが止まるような大きな災害が起こった際の為に、事前の準備をすることが大切になります。

今回は断水に関する対策を3点ご紹介いたします。

まず、**飲用・調理用の備蓄水は、一日一人当たり3L必要**とされています。それを最低でも3日分、できれば7日分備えることが推奨されています。また、生活用水も確保しなければいけません。生活用水とは、手や体を洗ったり、トイレを流したり、洗濯や食器洗いなどに使う水です。こちらは推奨量が定められておらず、言ってしまうと「あればあるほど良い」ものです。

そして水をためておける容器を用意することも、平時にできる準備の一つです。何も水をためる容器が無かった場合は、段ボール箱にビニール袋を被せて水を入れ、袋の口を縛るという方法で簡易的にウォータータンクを作ることができます。

またもう一つ事前にできる準備に、**自宅の近所の給水拠点を確認しておく**ことがあります。

「自治体名＋給水拠点」でウェブ検索をすると、自治体のウェブサイトで情報を探すこともできます。

お問い合わせ

